

全国保育実践交流会ニュース

2024.3 発行 関西地区

北陸地区

《令和6年度能登地震を受けて》

新年早々であったこと、そして、その被害の大きさに只々驚くばかりでした。全国の皆さんにもご心配をおかけしました。

3ヶ月近くが過ぎていますが、能登という土地柄（少子高齢化、人口減少、交通網（主要道路が1本のみ）の不便さ等々）、復興にすぐく時間がかかっています。現在も南加賀各地や加賀温泉郷（能登からは2、3時間）の大きなホテル等々に数千人避難されています。避難先の保育園や学校、介護施設での受け入れも行っています。再建はしたい、故郷に帰りたい人は沢山いますが、未だ水道が通っていない、液状化で道路が寸断されている、住まいが確保・修繕できないといった状況が多数見受けられているのが現状です。まだまだ時間はかかりそうです。

私たち北陸交流園は、富山1園、石川1園、福井3園がありますが、各園大きな被害もなく普段の保育が出来ています(山中ふたばに多少の被害が出ている程度)。何よりも保育中ではなかったことが幸いしていると痛感しています。正月明け、登園してきた子どもたちは、「地震怖かった」「車の中にいて、電柱が倒れてこない所に逃げてじっとしていた」「能登のおばあちゃんの家からやっとやっと帰ってきた」等々、しばらくは敏感になっている様子も見受けられました。

地震以降の活動については、余震が長く続いたこともあり、安全面を第一に各園自粛が続きました。2月スキー交流合宿、3月卒園交流合宿も中止となりました。北陸地区全体で取り組んだ劇団仲間「森は生きている」上演も中止となりました。最後にと、ようやく3月に1日交流がかない久しぶりの再会を喜び合いました。

今秋の東北研修からの学びも大きく、各園が避難対応を見直しています。北陸地区5ヶ園は3県をまたいでいて遠く離れています。次年度には交流中の万が一を考え、事前に各園の園長・主任・年長担任でそれぞれの園の避難経路・避難場所、引き渡し方法等々について実際に立ち合い、確認し合うことを計画しています。

《年長交流》

- 5月10日 於 三国ひかり、3園 リズム
- 5月31日 於 山中ふたば、2園
- 6月16日 於 三国ひかり、5園 森田さんを迎えてリズム
- 7月4日 於 山中ふたば、5園 リズム
- 12月5日 於 三国ひかり、4園 リズム・キャンドルづくり
- 3月6日 於 三国ひかり、3園 リズム、「こじかの太郎ちゃん」鑑賞

《年長交流合宿》

- 7月27日～29日 海あそび交流合宿（於 山中ふたば 2園）
- 8月4～6日 海あそび交流合宿（於 鷹巣ひかり 2園）
- 9月1・2日 富山立山室堂散策、称名滝（於 立山少年自然の家、3園）
- 9月14日～17日 運動会合宿（於 山中ふたば、5園）
- 10月25～27日 たいら合宿（於 たいら、3園）

《年齢部会》

（給食、5歳児、学童は関西全体で）

- 4歳児 6月6日 於 鷹巣ひかり
- 3歳児 8月30日 於 山中ふたば
- 2歳児 7月19日 於 どんぐり山
- 1歳児 6月30日 於 たいら
- 0歳児 6月29日 於 三国ひかり、
町村先生から学ぶ



9月 運動会交流合宿クロワッサンサーカス

4年ぶりに1日交流・交流合宿を再開するにあたり、各園の子どもたちや保護者の状況などを踏まえ、園長会で内容・日程・参加の有無等を検討し進めてきました。秋の運動会交流合宿は、関西地区を初めて3地域に分けての取り組みでした(総勢61名)。猛暑の中でしたが、子どもたちはさすが年長だな、コロナ禍でも各園が大切に保育をつみあげてきているなど感じられる元気な姿でした。

近畿地区の年長交流

2023年度の年長児交流はあすなら（奈良）17名、くるみ（大阪）10名、実り（京都）4名、ひょうたん山（京都）4名（のち3名）、山の子（和歌山）4名の5園で行いました。規模の小さい園がほとんどで、園の形態も認可園、小規模と認可外併設、認可外と多様です。

そんな中で全体としてはくるみ共同保育園を会場に5月・10月・12月と2泊3日の交流合宿が3回、3月には3泊4日の卒園交流合宿、11月と2月に1日リズム交流、そのほかにも8月にはあすなら・山の子であまごつかみ交流、2月にはくるみで1泊して乗馬体験と馬頭琴コンサートと、リズム交流と多彩な文化交流に各園の状況や子どもたちの健康状態に合わせての参加となりました。

○5月31日(水)～6月2日(金)

参加園：くるみ・実り・ひょうたん山・山の子
久々の年度初めての合宿で緊張したようですが、今後の手応えを感じました。2日目には奈良春日山原始林を歩き太古の自然を感じました。鹿とのふれあいも楽しいものでした。



○10月4日(水)～6日(金) 運動会合宿

参加園：くるみ・実り・山の子 18人の年長児がくるみの広い園庭を充分に使ってリズム、保護者による鯉の滝登りも行われました。



○12月6日(水)～8日(金)

参加園：くるみ・実り・山の子・あすなら（日帰り）

キャンドル・モール・長靴などクリスマスの制作と、「森は生きている」語りと歌とピアノのコンサートの日にはあすなら保育園も参加しました。



○2月2日(金) 参加：くるみ・ひょうたん山・山の子

和種馬ホースランドで引き馬や餌やり体験。グルーミングや自由に走る馬を見ることが出来ました。3日(土)全園参加。くるみ保護者会主催のコンサートでは馬頭琴とホーミー演奏に加え、馬頭琴の伴奏で子どもたちが馬になって駆けたり、1人1人馬頭琴の演奏体験もできました。



○3月5日(火)～8日(金) 卒園合宿

参加園：くるみ・実り・山の子・あすなら（1泊のみ）

フルーツコンサート、「小さなオキクルミ」影絵鑑賞。

中国地区の卒園合宿

中国地区の4園は、2/28~3/2(各園27日は自園でお泊まり保育)で、卒園交流合宿を行いました。関西地区を3つに分けて行うようになってから、2回目の開催でした。みんなが6歳を迎えるこの時期に、他者を見て己を知り、自ら挑戦する力を育てる機会になるよう、職員が協力し合い、合宿の運営、中身も考えて行いました。2回の1日交流、秋の運動会合宿(3泊4日)と一緒に遊んだ友達と会えるのを楽しみに、岡山のもみの木保育園に集合しました。年間通して同じグループでリズム・食事を共にしてきたので、久しぶりに会っても子どもたちはリラックスしている様子でした。

毎日、朝、夕、リズムをし、昼や夜には良い文化に触れる機会ももちました。今回は、『カエルの豆太』の大型紙芝居を担当たちが分担して行ったり、『こじかの太郎ちゃん』『黄金のかもしか』の映画も観ました。また、リズムの合間には水彩画を描いたり、こま大会が始まったりと、自分を表現する子どもたち、あそびながら自分を高めようとする子どもたちの姿に、卒園間近な子どもたちの伸びゆく力を感じました。

最終日は、各園から保護者、職員も来て、リズムを参観し、昼食後の文化行事では、地元の和太鼓集団の演奏を聴きました。

日々変わる年長の個、集団に、大人はどう向きあい、要求しきるか。また生活の基本(土台)の“食べること”に対して、どこまで担任と給食職員とで情報共有して手立てを考え、対応するかなど、食についても、リズムあそびや生活と同様に職員が一致して子どもの育ちを考えることが必要である、ということが会議の中でも話し合われました。



関西全体の取り組み

《12月保育実践交流会》

- 1、実施日時 2023年12月16日(土)9:00~16:00
- 2、会場 認定こども園三国ひかり(福井県坂井市)
- 3、参加園(人数) 12ヵ園 126名

関西地区の保育実践交流会はコロナ前までは1月に、総括会議は4月に大阪くるみ保育園を会場に毎年行われてきた。コロナになってからの足掛け4年は、全体が集まったの実践交流会は開催できず、資料を基にリモートで行われたが、リモート会議に慣れないこともあり臨場感にかけ、人の表情が分からず、一方通行的なところもあり、すっきりしない複雑な気持ちでの参加であったように思う。

今回、ようやくコロナからも解放されて関西の仲間が一堂に会して対面での保育実践交流会が、認定こども園三国ひかりを会場に開催できた。2ヵ園が急遽不参加になり、12ヵ園126人の参加者だった。

午前中は全園児の絵が並べられ各園の状況報告があり、午後は給食を含めた年齢別部会が、各部屋に分かれて討議がなされた。その後、各部会からの討議内容の報告があり終了した。

全体的な感想としては、実際に全体が集まった空気に安心感が生まれ、仲間がいることを改めて感じ自然に元気がもらえるような場がそこにはあった。また、コロナの間集まれなかったことで、初めて出会う若い保育士が目立ち、世代交代が進んでいると感じた。討議の中では、年配の保育士が話されることはよく分かり学ぶことはあるが、逆に自分とは学びのところではかけ離れているため、その場では発言しにくい空気があるという意見も出ていた。